

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：44305

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K14336

研究課題名（和文）他者との相互作用により主体的なキャリア形成能力を育むキャリア教育科目のデザイン

研究課題名（英文）Design of a Career Education Course to Foster Proactive Career Development Abilities through Interaction with Others

研究代表者

桑原 千幸 (Kawahara, Chiyuki)

京都文教短期大学・ライフデザイン総合学科・准教授

研究者番号：90587479

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000円

研究成果の概要（和文）：他者との相互作用に重点を置いたキャリア教育科目のデザイン原則を明らかにするため、デザイン研究アプローチにより実践・検証・改善を繰り返した。その結果、実名での相互評価や授業全体を通じて相互作用を促す段階的な足場かけが、継続的な学習意欲の向上に有効であることを明らかにした。また、対面学習および非同期eラーニングの両方の授業形態における相互評価学習方法の改善に取り組み、相互作用を促進する学習方法の要件への示唆を得た。さらに、学習内容と正課外活動が進路選択自己効力の変化に与える影響に着目し、他者との相互作用を通じて正課内外の活動を意味づける協調学習の開発に取り組んだ。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的な成果は、他者との相互作用に重点を置いたキャリア教育の実践に対する知見が得られたことにある。これにより、大学生が他者との協調学習を通じて自らのキャリアを主体的に形成する能力を高める実践を汎用的に行うことが可能となる。また、他者との相互作用を促すICTを活用した学習方法や、デザイン研究アプローチを用いた授業設計については、高等教育機関のキャリア教育のみならず、他の領域の協調学習や、初等中等教育段階における協働的な学びの実践に対しても波及効果が期待されるため、社会的意義があると考えられる。

研究成果の概要（英文）：To clarify the design principles for career education courses that emphasize interaction with others, we repeatedly practiced, verified, and improved using a design research approach. The results showed that peer assessment using real names and step-by-step scaffolding throughout the class were effective in enhancing continuous learning motivation. We also worked on improving peer-assessment learning methods in both face-to-face learning and asynchronous e-learning, obtaining suggestions for the requirements for learning methods that promote interaction. Furthermore, we focused on the influence of learning content and extracurricular activities on changes in career decision-making self-efficacy, developing collaborative learning approaches that give meaning to curricular and extracurricular activities through interaction with others.

研究分野：教育工学

キーワード：キャリア教育 授業設計 進路選択自己効力 相互評価学習 高等教育 デザイン研究

1. 研究開始当初の背景

現代の変化の激しい社会状況下では、将来の目標を立てて計画的に実行するだけでなく、生涯を通じて自らのキャリアを構築していくことが求められる。研究代表者はこれまで、学習者主体の協調学習方法である相互評価学習に着目し、進路選択に関わる相互評価学習によって学習者の進路選択自己効力が向上することを明らかにし、主体的にキャリアを形成する能力を育む相互評価学習実践モデルを提案してきた(科学研究費補助金若手研究 B (26750093))。しかしながら、より効果的な相互評価学習のための事前学習の検討、自己効力の維持、多様な学習者間の相互作用を促す学習システムの実現が課題として残されており、「他者との相互作用を促進することにより主体的なキャリア形成能力を育む授業全体のデザインはどのようなものか」という問いが新たに浮かび上がった。

本研究では、複雑な要因が絡み合う教育実践現場の問題を分析し、理論的枠組をもとに学習デザインの定期的な改善サイクルを実現することでよりよい教育実践を生み出すデザイン研究アプローチ (Design-based Approach) により、上記の問いの解決をめざすこととした。

2. 研究の目的

(1) 高等教育機関におけるキャリア教育では、現代の変化の激しい社会状況に適応するために、生涯にわたり社会や他者との相互作用を通じてキャリアを構築し、主体的にキャリアを形成する能力の育成が重要である。本研究の目的は、キャリア教育において主体的にキャリアを形成する能力を育むために、研究代表者のこれまでの研究成果である相互評価学習実践モデルをデザイン研究アプローチにより発展させ、他者との相互作用に重点を置いたキャリア教育科目のデザイン原則を明らかにすることである。

(2) 本研究の遂行によって、以下の3点を明らかにする。

- A. 学習者の効力感やキャリア意識は他者との相互作用を通じてどのように変化するのか。
- B. 他者との相互作用を通じたキャリア構築を促進する協調学習方法の要件は何か。
- C. 進路選択自己効力を向上させ、維持するためには、どのような授業デザインが効果的か。

3. 研究の方法

(1) 本研究の目的を達成するために、デザイン研究アプローチの手順(根本ほか 2011)を参考にした図1の枠組みを採用した。他者との相互作用に重点を置いたキャリア教育科目のデザイン原則を抽出し、授業設計・実践・改善のプロセスを繰り返すことによってデザイン原則の有効性と汎用性を高める。

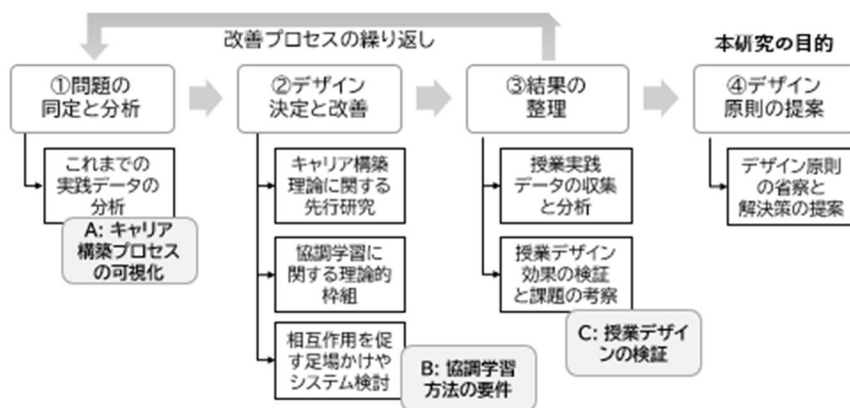


図1 本研究で用いるデザイン研究アプローチの枠組み

(2) 本研究の目的を達成する方法として以下の3点を実施した。

学習者の効力感やキャリア意識は他者との相互作用を通じてどのように変化するのか。相互評価学習等の他者との協調学習が学習者の進路選択自己効力やキャリア意識の変化にどのように影響しているのか、量的/質的研究方法を組み合わせることによって、他者との相互作用を通じたキャリア構築のプロセスを明らかにする。

他者との相互作用を通じたキャリア構築を促進する協調学習方法の要件は何か。より、既存の相互評価学習や協調学習をどのように改良することで、さらにキャリア構築を促すことができるのか、学習方法や学習支援システムの要件を明らかにし、改善を施す。

進路選択自己効力を向上・維持するためには、どのような授業デザインが効果的か。他者との相互作用を通じてキャリアを構築し、主体的なキャリア形成能力を高めるキャリア教育科目を設計し、効力感を向上・維持させる授業デザインの有効性を検証する。

#### 4. 研究成果

研究期間全体において、コロナ禍での授業実施の制約、所属機関のカリキュラムおよび学習環境の変更という外部要因により、予定通りの遂行が難しい状況であったが、教育実践と検証・改善のサイクルを繰り返し、一定の成果を挙げた。研究方法の3点に即して、以下詳細を述べる。(1) 学習者の効力感が他者との相互作用を通じてどのように変化するのか：授業デザインと授業外要因が効力感に与える影響を探るため、毎年度の授業実践において、受講生の効力感とキャリア意識を把握するための質問紙調査と分析を行った。また、課外活動経験の関連(2022)、相互評価学習方法(Moodle/Google Docs)、印象に残った授業回(2023)等の複数の観点からの検証を行った。

提出課題の相互閲覧や相互評価学習によって他の受講生の意見を閲覧することについて、「さまざまな意見・価値観を知ることができた」「自分の意見が変化した」と肯定的に捉えている受講生は、進路選択自己効力が向上していることが明らかになった(表1)。

表1 他の学生の意見閲覧と進路選択自己効力との相関(\* $p < .05$ )

	他の学生の意見を閲覧して		
	さまざまな意見・価値観を知った	自分の意見が変化した	キャリアを考えるヒントを得た
平均(SD)	4.8(0.40)	3.8(1.08)	4.8(0.40)
変化得点	.522 *	.530 *	0.181

ある期間の進路選択自己効力の変化に影響を与える可能性があるものとしては、キャリア教育科目の受講の他にも、クラブ・サークル活動をはじめとする正課外の活動や就職活動等の進路選択行動の達成や、周囲からのソーシャルサポートによる言語的説得などが考えられる。本研究では正課外活動に着目し、進路選択に関わる課外活動経験に関する調査を実施した。自己効力の変化と課外活動経験の関連を検証したところ、いずれの活動についても有意な結果は得られなかった。

実践対象機関において学生のノートPC必携化が実施されたため、学習環境の変化に対応した協調学習方法を新たに検討した。これまで実施してきたMoodleを活用した相互評価学習と、個人PC上でGoogle Docsによる意見共有を行う学習を比較し、進路選択自己効力とキャリア意識の変化がどのように異なるか検証した。その結果、オンラインドキュメントによる意見共有によって、他者の多様な意見・価値観を知ることが促された可能性が示唆された。

学習者の印象に残る授業回と自己効力の変化の関連を検証したところ、有意な結果は得られなかった。しかしながら、印象に残っていると答えた学生が最も多いのが「キャリアプランの発表」(76.7%)であり、印象有無別の自己効力変化得点の平均値の差を見ると「さまざまな働き方」や「ライフサイクル2(結婚/出産と金銭)」等の回が差が大きいことから、どのような学習内容が各受講生のキャリアプラン発表に影響を与えているのか、質的に検証する必要性が浮かび上がった。

#### (2) 他者との相互作用を通じたキャリア構築を促進する協調学習方法の要件

協調学習方法の要件を明らかにするため、2019年度には他者との相互作用をさらに促すように授業デザインを改善し、実践と検証を行った。相互評価学習を今後もやってみたいと感じる満足感については一定の効果が得られたものの、評価割り当てや評価対象課題表示方法の工夫、相互コメントを促す足場かけ等について、学習方法の改善の必要性が浮かび上がった。

2020年度にはコロナ禍への対応として当該科目をすべてオンライン授業で実施することとなった。使用するシステムおよび学生の学習環境の制限からスマートフォンでの受講を前提とし、他者の課題閲覧と進路選択課題作成を中心とした授業を設計した。実践結果をもとに検証を行ったところ、他者の課題閲覧に対して肯定的な反応は得られたもの、進路選択自己効力の有意な変化は見られなかった。使用機器による課題の認知を比較したところ、パソコンで学ぶ学生の方が面白さややりがい、自信を感じていることから(表2)、スマホで受講する学生のための授業方法の改善の必要性が明らかになった。

表2 学習環境と課題の認知

	(* $p < .05$ , + $p < .1$ )		
	パソコン	スマホ	検定
キャリアプランの作成	面白かった(A)	4.52	4.00 *
	やりがいがあった(R)	4.62	4.08 *
	今後もできそうだと自信がついた(C)	4.33	3.75 *
	自分なりに考えることができた(C)	4.71	4.50
	やってよかった(S)	4.86	4.67
他者のキャリアプラン閲覧	今後もやってみたい(S)	4.24	4.08
	面白かった(A)	4.90	4.33 +
	やりがいがあった®	4.62	4.17
	やってよかった(S)	4.81	4.50
	今後もやってみたい(S)	4.48	4.33

### (3) 相互評価学習の授業デザイン検討

これまでの検証結果をもとに授業デザインの改善を行った。他者との相互作用をさらに促進するために、シラバスおよび授業の初回で「他の受講生とのやり取りを重視した授業」であることを説明し、複数回の授業にわたって掲示板への投稿および他者への評価を段階的に行うことで、意見表明および評価に慣れていき、他者との相互作用を徐々に促進することをねらいとした。

オンデマンド/ハイブリッド授業の導入や、学生のノートPC 必携といった学習環境の変化に応じた協調学習方法を模索した。一時的な緊急対応ではないオンライン非同期授業においても同様の協調学習を行うための方法について、キャリア教育領域に関わらず広く文献調査を行った。

正課外活動と進路選択自己効力との関連が見られなかったものの、授業内で他者との相互作用を通じたキャリア構築について肯定的な結果が得られていることから、他者との相互作用を活かして正課外の活動を意味づける学習を取り入れるなど、授業設計の発展的な改善の方向性を検討した。

#### <引用文献>

根本淳子・柴田善幸・鈴木克明(2011) 学習デザインの改善と学習の深化を目指したデザイン研究アプローチを用いた実践. 日本教育工学会論文誌, 35(3), 259-268

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 桑原千幸, 小椋真理, 真下知子	4. 巻 59
2. 論文標題 短期大学におけるコロナ禍に対応したオンライン授業への取り組み FD、学生支援の実践事例	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 京都文教短期大学研究紀要 / 京都文教短期大学学術情報リポジトリ <a href="https://kbu.repo.nii.ac.jp/records/3218">https://kbu.repo.nii.ac.jp/records/3218</a>	6. 最初と最後の頁 47-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 桑原千幸
2. 発表標題 キャリア教育科目における相互評価学習のデザインとキャリア意識の変化
3. 学会等名 日本教育工学会 2024年春季全国大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 桑原千幸
2. 発表標題 初年次キャリア教育科目受講生の正課外活動経験と進路選択自己効力の変化に関する考察
3. 学会等名 日本教育工学会 2023年春季全国大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 桑原千幸
2. 発表標題 栄養士養成課程における教育方法授業の大福帳の分析；食育指導案作成のプロセスに着目して
3. 学会等名 教育システム情報学会 第46回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 桑原千幸
2. 発表標題 初年次キャリア教育科目のオンライン授業実践と学習環境に関する考察
3. 学会等名 日本教育工学会 2021年春季全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 桑原千幸
2. 発表標題 他者との相互作用に重点を置いたキャリア教育科目のデザインに関する研究
3. 学会等名 教育システム情報学会 第44回全国大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------